

平成22年 8月29日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅ
炉内中継装置の取り外し作業中の異音に係る調査状況について

高速増殖原型炉もんじゅ（定格出力28万kW）は、現在、燃料交換作業の後片付け作業中ですが、8月26日14時48分頃、原子炉建物において、炉内中継装置^{*1}を取り外すため、原子炉容器内より約2m位吊り上げた時点で、吊り荷重が急減し、異音を確認しました。【8月26日お知らせ済み】

昨日8月28日から、ファイバースコープやCCDカメラを用いて、原子炉機器輸送ケーシング（AHM^{*2}）吊り上げ装置グリッパの外観確認を実施しています。

昨日の段階では、2つあるグリッパ爪^{*3}の片方については異常がないことを確認しました。

本日29日10時頃から、CCDカメラを用いて、もう片方のグリッパ爪についても異常がないことを確認しました。その後、グリッパの外観確認を行っていたところ、10時15分頃、グリッパの爪を開閉する「爪開閉ロッド」が、グリッパの爪に対して正しい状態から約90度回転していることを確認しました。

本日の調査においてグリッパに異常が認められたことから、今後、AHMを原子炉上部から取り外してメンテナンス・廃棄物処理建物へ搬送し、グリッパなどの詳細な点検を実施する予定です。

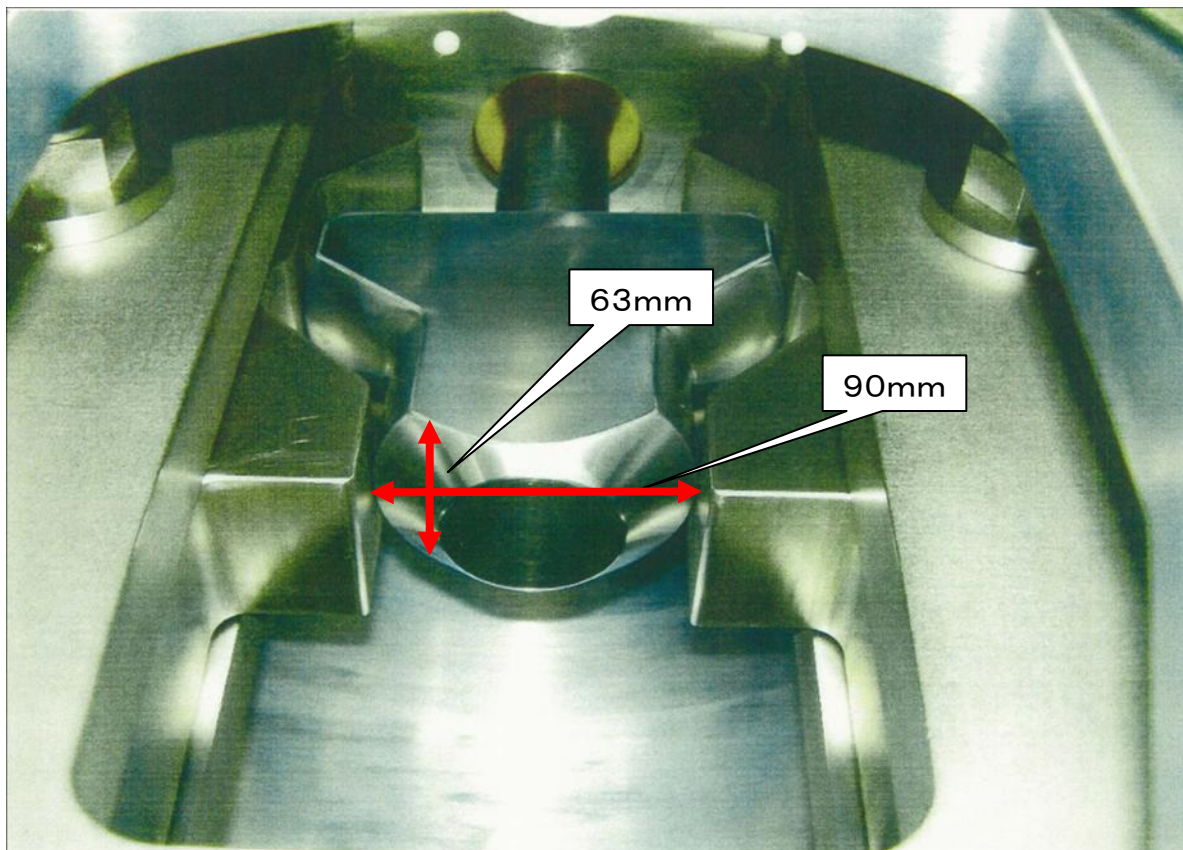
*1：燃料交換時に炉心と燃料出入設備との間で炉心構成要素を移送する燃料交換設備の構成機器の一つ。

*2：AHM（Auxiliary Handling Machine）

*3：グリッパに取り付けてある、炉内中継装置を掴むための爪のこと。

以上

「もんじゅ」原子炉機器輸送ケーシング(AHM)爪開閉ロッド部



【図-1】 正常な「つかみ」状態

【図-2】
8月29日にCCDカメラで確認した状態